

活動をインターネットで紹介しています

ちば多文化協働プロジェクト

検索



<https://www.facebook.com/chibatabunka26>

写真

クラスや講座の様子
チラシなど

動画

日本語クラスのスピーチ
ミニドラマ
防犯パトロールの様子など

ログイン不要

どなたでも閲覧可能です



記事

取組の予告、報告
目的・内容・参加者の声

H27年度事業実施状況(2016.2.4現在)

取組	参加者数	国籍	連携等
取組1 テーマでつながる日本語クラス 3期実施(6/20-7/4, 9/25-10/9, 1/18-2/1)	145人 (うち外国人 学習者77人)	アメリカ、イギリス、 インドネシア、エジプト、 カナダ、韓国、ジャマイカ、 タイ、台湾、タジキスタン、 中国、チリ、日本、 ニュージーランド、 ネパール、パキスタン、 バングラディシュ、 フィリピン、フランス、 ベトナム	千葉中央警察署 千葉市社会福祉協議会若葉区事務所
グループ会話クラス 2期実施(7/2-7/30, 11/11-11/29) うち1期は若葉区にて開催			
初級文法クラス 2期実施(4/28-6/2, 10/7-11/4)			
取組2 日本語学習支援ボランティア入門講座 4期実施(5/15-5/29, 7/15-7/29, 12/1-12/15, 2/20-3/5)	109人 (うち外国人 学習者28人)	アメリカ、韓国、ジンバブエ、 タイ、台湾、中国、日本、 ニュージーランド、フランス、 ベトナム、ミャンマー	
日本語学習支援ボランティア養成講座 1期実施(9/3-11/5)			
日本語学習支援ボランティア実践講座 2期実施(6/10-6/21, 11/20-12/4)			
ボランティア活動相談会 5/28, 9/30, 10/29, 12/15			
取組3 多文化理解セミナー 3期実施(10/31, 11/16, 12/11)	84人 (うち外国人 30人)	イラン、インドネシア、 ウガンダ、カナダ、韓国、 コロンビア、タイ、台湾、 タンザニア、中国、日本、 ネパール、バングラディシュ、 フィリピン、ベトナム、 マレーシア、ミャンマー	ちば国際コンベンションビューロー千葉県国際交流センター、宮崎公民館、千葉市立稲毛高等学校、多文化フリースクール、千葉大学学務部留学生課
防犯パトロールキャンペーン 5箇所実施(10/17, 10/20, 10/21, 10/26, 10/27)	16人 (うち外国人 8人)	イギリス、インド、中国、 ペルー、日本	磯辺中学校区育成委員会、今井連合町会、稲毛町防犯パトロール隊、松波町会、幕張町北4丁目自治会、千葉中央警察署、千葉西警察署、中央区役所地域振興課地域づくり支援室、中央区役所地域振興課地域づくり支援室、美浜保健福祉センター健康課、消防局、神田外語大学国際交流課
取組4 多文化協働ネットワーク会議 11/30	23人 (うち外国人 4人)	日本、中国、バングラディシュ、 マレーシア、ベトナム	千葉県千葉中央警察署、千葉県千葉西警察署、千葉公共職業安定所、千葉市(防災対策課、国際交流課、保育運営課、保育所、中央区役所地域振興課地域づくり支援室、若葉区役所地域振興課くらし安心室、美浜区役所地域振興課地域づくり支援室、美浜保健福祉センター健康課、消防局、消防署) NPO法人日本防災士会 千葉県北部支部



公益財団法人 千葉市国際交流協会

〒260-0013 千葉市中央区中央2-5-1
千葉中央ツインビル2号館8階
TEL 043-202-3000

ちば多文化協働プロジェクト お問い合わせ先
chibatabunka@ccia-chiba.or.jp

たぶんか きょうどう

ちば多文化協働プロジェクト 2015

平成 27 年度 文化庁委託事業 成果報告



千葉市の外国出身者は約 2 万人です。
留学生、駐在社員、配偶者、研修生、
看護介護職など、多様化して、社会に
組み込まれています。

日本語で自己表現するのが難しい…
外国人が多いけれど話さきっかけがない、
どちらも、もったいないことです。

様々な文化背景の人がお互いの話を聴い
たり気づきを発信したりすることで、地域は
だれにとっても住みやすいまちに進化してい
くでしょう。

千葉市国際交流協会では、従来から外国
人市民に対するコミュニケーション支援事業を
おこなっています。「ちば多文化協働プロ
ジェクト」では、一般の市民の方も参加しや
すい企画をつくり、多様な言語・文化を背
景に持つ人々同士が楽しく対話し、お互
いを知る形式にしました。

(公財) 千葉市国際交流協会

日本語クラス

このプロジェクトの日本語クラスは、市民参加の対話型であることが特徴です。コミュニケーションを通じて各参加者のさまざまな能力を生かすことができます。外国人市民にとっては、クラス活動が日本語習得の過程になり、日本人市民にとっては、異なる価値観に触れたり、日本語を母語としない人々とのよりよいコミュニケーションのとり方を考えたりする機会となります。

テーマでつながる日本語クラス

「葬儀」「防犯」「学校の役割・親の役割」の3つのテーマで、話す・聞く・読む・書く・やってみる・調べる・つくる、などの活動をしながら考えや気持ちを発信しあいました。スピーチやミニドラマといった発信の成果物は、動画で公開しています。

国のことを発表できて嬉しい。他の発表も興味深かった

考えさせられた。知りたいことはどんどん広がる

グループ会話クラス

「わたしの夢」をストーリーにまとめて、デジタルやアナログの紙芝居にしました。日本語ボランティアや他の学習者と話しながら将来の夢を具体化していく作業。日本語学習になるのはもちろん、夢の実現に向けた一歩を言語化することが、チャレンジする意欲にもつながりました。

ほかの参加者のストーリーもみんなすばらしい！わたしも頑張ります

何かを創るという協働作業を通じて言葉を理解するおもしろさ・楽しさがあった

初級文法クラス

～することができる／～するまえに／～したことがある、など、日本語の基礎的な文の作り方を練習しながら、身近なことについてたくさん話しました。クラスの学習の目的は生活の中のコミュニケーション向上。ことばの構造に意識を向けつつ、内容のある「生きた会話」を大切にしました。

このクラスのやり方はとても実践的！

ほんの少しの言葉の違いや使い方も学習者の大きな疑問になることがわかった



日本語学習支援ボランティア講座

外国人市民が地域の一員として活躍できる社会をめざすとき、日本語学習支援にはどんな活動が望まれるのか、理論と実習がありました。対話と協働から、気づきや新たな価値が生まれました。

入門講座

対話型日本語活動に必要な基礎知識とコミュニケーションスキルを3回の中にまとめました。これから活動を始める方には指針となり、従来型の日本語指導をしている方には、「学習支援」についての新たな視点を提供しました。

日常生活でも活かせることをたくさん学べた

日本語ボランティアに求められているのが「学習者との対等な関係」と知り、安堵した

養成講座

入門講座に加えて、さらに具体的な学習素材や利用法を盛り込みました。学習に役立つ辞書ツールや文化庁のサイトからダウンロードできる教材の紹介もしました。参加者同士の十分な対話・協働を通して、修了後も相談しあえる関係性が生まれました。

ボランティアの役割は日本語を教えることと考えていたが、それよりももっと大切なことがあると知った

学習者と共に学び、解決する。今まで自分が調べて伝えてばかりいたことを反省した

実践講座

市民参加の日本語活動では、「お喋り」も交流や国際理解、生活支援として大切です。そのお喋りが少しの意識で「日本語学習」にもなります。講座では学習者との協働セッションでその方法を演習しながら、対等な関係を築くためのコミュニケーションのあり方に意識を向けました。

ほかの参加者の意見をきき、意識していなかった自分の感情や考えに気づいた

他者との違いを知ることは自分自身の許容範囲を広げることだと感じた



学習者に寄り添う気持ちが、「聴くこと」「待つこと」につながっていくと感じた

多文化理解セミナー

協働・交流を通じて多様な文化について理解するセミナーを3回実施しました。いずれも外国人市民と日本人市民が気軽に楽しく話を聴きあえる時間を多く設けました。

外国人住民とまちの未来を語ろう ～グローバル化と多様性～

中高大生など若者層を中心に、多様な出身地域の参加者がグループで協働しました。まちづくりにおいて大切だと思う項目をランキング。意見交換のまえに、まず活動内容を共有するためのコミュニケーションに工夫が求められました。

自分たちが、今とても平和な社会で生きることができているんだと気づいた（高校生）

今までは英語をペラペラ話したいと思っていたが、それよりも上手に伝えられるようになりたいと思った（高校生）

日本語があまりわからない人とどうやってコミュニケーションをとろうかと思ったが、最後は身振りなども交えて通じ合えてよかった。この体験も、グローバル化する社会でまちをつくることに生かしていける（高校生）

世の中、英語だけじゃないんだ。スペイン語やフィリピンの言葉を聞いてすごく興味を持った（高校生）

え？わたしだけの思い込み？！ ～世界地図で見る価値観の違い～

模造紙を囲んで世界を飛び回りながら、出身の異なる人々が考えを伝え合いました。多文化を背景に持つ市民を日本はどう地域に受け入れるのか、多様な考えの発信がありました。



私たちがあたりまえと思っていることが外国ではそうじゃなかったりする。その違いによって社会問題に対する目のつけどころが違ってくことに気づいた（高校生）

宗教と食 ～豚を食べる人、食べない人～

イスラム教についての講義のあと、日本に住む外国人ムスリムとの交流で理解を深めました。日本の生活の中で教義をどう実践しているのか、直接、生の声を聴くことができました。

日本は開かれていくことが求められていると思う。同時に、従来からあるものが変わっていくことに、怖さもある

日本のことがよくわからない。これからもこのようなイベントでコミュニケーションが図れる機会を期待したい

「ハラール」は食品だけをさすことではないことを日本人の友達に教えてくれた

テレビなどで見る限り、イスラムは厳しいしほりがあると考えていたが、多様な生き方をしていることがわかった

結婚やモスクや生活についても訊いてもらえて嬉しかった



防犯パトロールキャンペーン

多文化協働の輪を町内会へ。外国人市民が地元住民と交流しながら防犯活動に貢献できるよう、きっかけをつくりました。歩いて目に入るものを素材にすると、衣食住から環境問題まで話が尽きず、日本語学習の機会としても有意義です。



まちの安全は地域の人たちが守っていることを学んだ

今後も自分の団地でこのような機会があれば参加したい

たいへん友好的で、若さ明るさにあふれて良好！

続けて参加してもらえたら相互理解が深まる

多文化協働ネットワーク会議

地域の多文化化に伴う課題に、行政やNPOなど、さまざまな部署や機関が連携して取り組めるよう、情報交換の場を設けました。

第1回会議では、外国人市民を交えて防災に関する情報共有とシミュレーションでのアイデア出しをしました。

言語の問題にとらわれていたが、相手を知ろうとする思いがコミュニケーションにつながる、と強く感じた

「防災」のテーマにも「就労」や「保育」など様々な問題が関係しているということが知れてとても有意義だった

他機関と連携を図っていく必要を感じた



さまざまな分野の担当者が参加していて、外国人を生活者（住民）として受け入れようとしていると感じた